

習志野にある

雲龍水(龍吐水)ってなんですか？

1ページの写真は庭先で実際に水をだしてみているところ。放送大学附属図書館に提供していただきました。

この素朴な疑問

習志野にある「雲龍水」って何かご存じですか。龍の形の置物？ひと口飲めばたちまち…の靈験あらたかな水？いえいえ、これは江戸時代から明治時代にかけて使われていた消防ポンプです。

雲龍水はどんな働きをしていたのでしょうか。習志野にあるのはどうして。そして、それはどこに行けば見られるのでしょうか。

雲龍水は木製の頑丈な水槽に水を貯め、左右に長く伸びた腕木を上下させて水を噴出させるものです。

その様子が龍が水を吐く姿に見えることから「龍吐水」と名づけられました。しかし、消防ポンプとしての力は強くなかったので、改良されたものが「雲龍水」と名づけられました。

それでも直接、完全に消火するほどのパワーはなかったということですが

燃え広がるのを食い止めるのには役立っていたようです。

また、江戸時代の消火方法は火がそれ以上に燃え広がらないように周りの建物を取り壊す「破壊消火」でしたので火消したちは鳶口や刺股を持ち、火の粉を浴びながら活動しました。その火消したちが着ていた刺子の半纏はんけんに水を含ませるためにも、雲龍水は使われていました。



習志野にある雲龍水は、習志野市防災協会が「発足50周年記念事業」の一環として平成21年に約300万円かけて復元製作したもので、「消防の歴史を学び、消防人の心意気を今に伝えることにより、防火への関心を持ってもらいたいとの願いを込めて」作られたということです。

現在、中央消防署の一階に展示してあります。

ここにはもう一基展示されています。これは譲り受けて所蔵している古いものですが、まだまだ健在で、昨年11月東京ドームで開かれた「消防団120年・自治体消防65周年記念大会」には、習志野から2基そろって参加、満員の参加者に放水を披露しました。

■上の写真、および次ページの写真■

江戸時代の習志野でも「龍吐水」が使われていたということが『習志野市史』に載っています。

鷺沼の医師であった渡辺東淵(とう

えん)という人が『渡辺東淵雑録』と呼ばれる古文書を残していて、それには文政7年(1824)から安政6年(1859)の36年間に渡って、近隣の村々の出来事が記録されているのです。

その中の天保10年(1839)の項に「九月中旬 龍吐水 求ル 村中ニテ二丁 代巻朱遣ス」とあります。

「鷺沼村で龍吐水を二丁求め、代金を一朱払った」という記述です。

一朱は一両の16分の1なのであまり高価ではなく、「二丁」という数え方から小型の水鉄砲タイプのポンプだったと考えられるとのこと。

雲龍水は江戸中期の享保年間(1716~1736)にオランダから渡来したという説と、近江大塚田中久重の発明という説がありますが、いずれにしても東淵さんの時代には、広く出まわっていたに違いありません。





市民まつり「きらっと」で



みんな大好き

雲龍水

毎年開かれている市民まつり「習志野きらっと」や消防・救急フェアに雲龍水も参加。子どもたちの人気のマトです



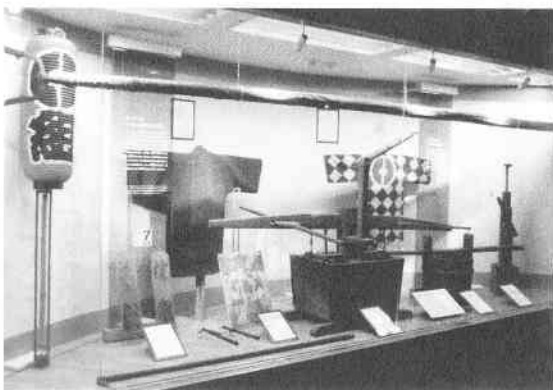
「消防・救急フェア」で

東京消防庁 消防防災資料センター 消防博物館



大名行列に龍吐水も……

東京消防庁消防博物館には消防ヘリコプターや最新の消防機器・装備などが展示されていて子ども連れでも楽しめます。
「消防の変遷」、「消防の夜明け（江戸の火消）」のフロアには龍吐水の展示やジオラマもあります。



町方の火消のコーナー

- ・所在地 東京都新宿区四谷3・10 東京メトロ丸ノ内線「四谷3丁目」駅2番出口直結
- ・電話 03・3353・9119
- ・開館時間 午前9時30分〜午後5時
- ・休館日 毎週月曜日（国民の祝日にあたる場合は翌日）、12月28日〜1月4日、館内整備日
- ・入館 無料

2013年11月25日 東京ドーム

消防団 120年 自治体消防 65周年記念大会



全国から消防団員、消防署員が参加して開かれた記念大会。「腕用ポンプの部」には習志野からの2基を含む10基が出場。炎に見たてた赤いボール目がけて一勢に放水する珍しい光景は圧巻で、東京ドームを埋め尽くした参加者から盛んな拍手が送られていました。